

授業概要					
学 科	本 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	4	必要時間数	80	実施時間数	80
担当教員	中 詩帆				
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム		
授業目的	あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師として患者を診察し治療可能かどうかの判断を行う際、正しく西洋医学的知識を持つことにより、患者の訴えや身体所見から病名を推測する事ができるようになる。 そのため、代表的な疾患についての疫学や病態、治療法を学習する。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、臨床医学各論、第 2 版、医歯薬出版株式会社				

具体的な到達目標	
目標 1	西洋医学の疾患について成因、病態生理について説明できる
目標 2	西洋医学の疾患について西洋医学の観点において診断方法や治療方法について説明できる
目標 3	
目標 4	
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	90%		90%		
平常点		算出方法		算出方法	
出席点		算出方法		算出方法	
その他	10%	算出方法	10%	算出方法	小テスト
試験日	後日伝達		後日伝達		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☒	無 ☐
教員の实務経験	往診、訪問マッサージ		
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		11章の「A脳血管疾患（a）」について内容の関連を理解し、説明することができる。	
2		11章の「A脳血管疾患（a～d）」について内容の関連を理解し、説明することができる。	
3		11章の「B感染性疾患（a～c）、C脳・脊髄腫瘍（a）」について	
4		11章の「C脳・脊髄腫瘍（a～d）、D基底核変性疾患（a～d）」について	
5		11章の「D基底核変性疾患（a～d）」について	
6		11章の「Eその他の変性疾患（a～c）」について	
7		11章の「F痴呆性疾患（a）、G筋疾患（a～b）」について	
8		11章の「H運動ニューロン疾患（a～b）、I末梢神経性疾患（a～d）」について	
9		11章の「J神経痛（a～d）、K機能性疾患（a～d）」について	
10		11章補足資料①	
11		11章補足資料②	
12		11章 問題演習	
13		10章の「A. 赤血球疾患(a. b. c)」について	
14		10章の「A. 赤血球疾患(d)、B. 白血球疾患(a)、C. リンパ網内系疾患(a)」	
15		10章の「D. 出血性素因(a. b)」について	
16		10章補足資料①	
17		10章補足資料解説②	
18		10章 問題演習	
19		試験前復習 演習問題	
20		試験解説	
21		9章の「C. 動脈疾患(a. b. c)」について	
22		9章の「A. 心臓疾患(a. b)」について	
23		9章の「A. 心臓疾患(b)」について	
24		9章の「A. 心臓疾患(b)」について	
25		9章の「A. 心臓疾患(b. c. d)」について	
26		9章の「B. 冠動脈疾患(a. b)、D. 血圧異常(a. b)」について	
27		9章補足資料①	
28		9章補足資料②	
29		12章の「A. リウマチ性疾患(a)、B. 膠原病(a)」について	
30		12章の「B. 膠原病(b. c. d. e. f. g)」について	
31		13章の「A. 小児科疾患(a. b) B一般外科」について	
32		13章の「C麻酔科 D. 婦人科疾患(a. b. c. d. e)」について	
33		13章の「E皮膚科疾患（a～d）F眼科疾患（a～f）G耳鼻咽喉科疾患（a～e）」	

		について
34		第 13 章の「H 精神科疾患（a～d）、I 心療内科」について
35		第 13 章の「H 精神科疾患（a～d）、I 心療内科」について
36		試験前解説 演習問題
37		試験解説
38		13 章補足資料①
39		13 章補足資料②
40		13 章補足資料③ 問題演習

その他の事項

授業資料を配りますが、基本的に教科書を用いて授業を進めていきます。
資料は自己管理をお願いします。紛失時は各自コピー等に対応して下さい。

授業概要					
学 科	本 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	60	実施時間数	60
担当教員	黒木 裕士				
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム		
授業目的	リハビリテーション医学の全体を理解する。具体的には、リハビリテーション医学の歴史と現状、対象疾患、治療手段・方法等について学習し、各種疾患等の個別リハビリテーション対応を説明できることを授業目的とする。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、新版リハビリテーション医学、文光堂				

具体的な到達目標	
目標 1	リハビリテーション医学の理念・目的・語源・歴史について説明できる。 生活機能分類・リハビリテーションの分野について説明できる。
目標 2	リハビリテーション医療とチーム、地域リハビリテーションについて説明できる。
目標 3	リハビリテーションにおける診断・評価について説明できる。
目標 4	リハビリテーション治療学について説明できる。
目標 5	整形外科疾患のリハビリテーションについて説明できる。
目標 6	神経疾患のリハビリテーションについて説明できる。
目標 7	内部障害とがんのリハビリテーションについて説明できる。
目標 8	高齢者に多くみられる疾患とそのリハビリテーションについて説明できる。
目標 9	小児疾患のリハビリテーションについて説明できる。
目標 10	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	1 0 0 %		1 0 0 %		
平常点	0 %	算出方法	0 %	算出方法	
出席点	0 %	算出方法	0 %	算出方法	
その他	0 %	算出方法	0 %	算出方法	
試験日	後日伝達		後日伝達		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☒	無 ☐
教員の实務経験	理学療法士としての実務経験		
実務経験をいかした教育内容	リハビリテーションにおける臨床経験を有する教員が、その経験を生かしてリハビリテーション医学の歴史と現状、対象疾患、治療手段・方法等および各種疾患等の個別リハビリテーション対応について講義する。		

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		リハビリテーション医学・医療①理念・目的、語源・歴史	教科書 2-7 頁
2		リハビリテーション医学・医療②生活機能分類	教科書 7-12 頁
3		リハビリテーション医学・医療③リハビリテーションの分野	教科書 12-13 頁
4		リハビリテーション医学・医療④リハビリテーション医療	教科書 13-16 頁
5		リハビリテーション医学・医療⑤リハビリテーションチーム、地域リハビリテーション	教科書 16-24
6		診断・評価学①診断・評価とは、リハビリテーション診療の流れ	教科書 81-92
7		診断・評価学②検査・測定（総論、形態計測、関節可動域テスト）	教科書 92-105
8		診断・評価学③検査・測定（筋力評価、整形外科的検査法）	教科書 105-122
9		診断・評価学④検査・測定（神経学的検査法、ADL の評価、高次脳機能検査）	教科書 122-131
10		診断・評価学⑤検査・測定（運動発達評価、心理評価、摂食嚥下機能の評価）	教科書 131-136
11		診断・評価学⑥検査・測定（筋緊張・片麻痺機能の評価）	教科書 136-139
12		治療学①運動療法	教科書 140-149
13		治療学②物理療法	教科書 149-151
14		治療学③作業療法、言語聴覚療法	教科書 151-160
15		治療学④補装具、自助具・福祉用具	教科書 160-180
16		整形外科疾患①運動器疾患-上肢、下肢	教科書 182-216
17		整形外科疾患②運動器疾患-脊椎、脊髄損傷	教科書 216-231
18		整形外科疾患③脊髄損傷、切断	教科書 231-241
19		整形外科疾患④関節リウマチ・スポーツ傷害	教科書 241-249
20		神経疾患①脳血管障害-基礎知識	教科書 250-259
21		神経疾患②脳血管障害-リハビリテーション治療の要点	教科書 260-272
22		神経疾患③パーキンソン病	教科書 272-278
23		神経疾患④脊髄小脳変性症・多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、末梢神経障害、ポリオ	教科書 278-291
24		内部障害①虚血性疾患	教科書 292-298
25		内部障害②呼吸器疾患	教科書 299-304
26		内部障害③糖尿病	教科書 304-317
27		がん、高齢者に多くみられる疾患①骨粗鬆症・廃用症候群	教科書 318-347
28		高齢者に多くみられる疾患②認知症	教科書 347-352
29		小児疾患①脳性麻痺	教科書 353-358
30		小児疾患②筋ジストロフィー症・二分脊椎	教科書 358-361
その他の事項			
教科書だけでなく、動画等を用いることがあります。対面授業の冒頭では、それまでの授業回での不明点等について質問時間を設けます。			

授業概要					
学 科	本 科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	3 0	実施時間数	3 0
担当教員	松 尾				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	安心・安全な医療を提供・享受する上で「法」は必要不可欠な学問のひとつです。				
	この授業ではあはき法及び他の医事・社会福祉・社会保険・衛生法規の基礎を学び、それらの法規の関係性及び制定の主旨を理解することを目的とします。				
	「法」というと非常に堅苦しい印象を受けますが、みなさんの身近な例、これから相対するであろう事象を取り上げながら、この授業で学ぶ「法」に親しみを感じていただければと思います。				
教 科 書	関係法規 第7版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社				

具体的な到達目標	
目標 1	あはき法制定の目的について説明することができる。
目標 2	あはき法における免許・名簿に関する事項について説明することができる。
目標 3	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の業務範囲について説明することができる。
目標 4	施術所の要件や広告の制限について説明することができる。
目標 5	あはき法に纏わる罰則について説明することができる。
目標 6	各種医事法規・薬事法規について、その概要を説明することができる。
目標 7	各種衛生関係法規・社会福祉関係法規・社会保険関係法規について、その概要を説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%		
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	後日伝達		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☒	無 ☐	
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		あはき法①（法制定の目的、免許と試験①[免許制度の意義、免許の資格要件]）	
2		あはき法②（免許と試験②[免許に関する事務、施術者の身分]）	
3		あはき法③（業務①[業務の範囲、施術に関する注意]）	
4		あはき法④（業務②[施術所に関する規則、広告の制限]）	
5		あはき法⑤（業務③[医業類似行為]、学校・養成施設）	
6		あはき法⑥（罰則、その他）	
7		あはき法⑦（あはき法まとめ）	
8		関係法規①（医療法）	
9		関係法規②（各種医療従事者の根拠法）	
10		関係法規③（薬事法規）	
11		関係法規④（衛生関係法規）	
12		関係法規⑤（社会福祉関係法規①）	
13		関係法規⑥（社会福祉関係法規②、社会保険生関係法規①）	
14		関係法規⑦（社会保険生関係法規②）	
15		その他の関係法規	

その他の事項

特に前半部の「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」の内容は将来開業をする際に必要となる知識ですので、国家試験のみならず、卒業後のことも見据えて学んでください。

質問等があれば教員室または下記アドレスへお願いします。

担当者アドレス：s.matsuo@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	本 科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	2	必要時間数	3 0	実施時間数	4 0
担当教員	松浦 穰士				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	鍼灸治療の臨床の場においてよく遭遇する疾患・症状に対して、正経や奇経を用い治療法を考察する力をつける。また、奇穴や特効穴、奇経治療、頭皮鍼・髪際鍼なども紹介するので、実際に使用する意義や方法などを学習する。				
教 科 書	教科書は指定しない				

具体的な到達目標	
目標 1	経穴の取穴や部位だけでなく臨床にあった取穴術を理解する。
目標 2	正経だけでなく、奇穴など特効穴を配穴できる。
目標 3	頭皮鍼・髪際鍼の方法を理解する。
目標 4	奇経治療の応用を理解する。
目標 5	鍼灸院で良く見る疾患について、問診や治療法の配穴を自分で決める。
目標 6	良導絡治療法を理解する。
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	90%		
平常点	10%	算出方法	小テスト
出席点		算出方法	
その他		算出方法	
試験日			

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	鍼灸師の免許を有する。鍼灸治療院にて 24 年の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸治療院において、特に遭遇することの多い疾患に対して、診断や配穴方法を紹介する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		手の三陰経の主要穴	
2		手の三陽経の主要穴	
3		手三陰三陽のまとめ（対面）	
4		足の三陰経の主要穴	
5		足の三陽経の主要穴	
6		腹部・背部の主要穴	
7		足三陰三陽のまとめ（対面）	
8		消化器疾患（糖尿病）に対する治療法	
9		うつ病（心の病）に対する治療法	
10		自律神経症状（めまい等）に対する治療法	
11		自律神経症状に対する治療法の解説（対面）	
12		耳鍼療法（瘦身療法）	
13		高齢者に対する治療法	
14		頭皮鍼・頭髪際鍼の方法（対面）	
15		試験の解説、良導絡治療の方法（対面）	

その他の事項

実際の臨床で特に効果のある経絡・経穴を紹介するのでぜひしっかりと学習してください。経穴の部位がまだしっかりと入っていない人は予習をして受講してください。

専 門 分 野（ 東洋医学臨床論Ⅰ ）シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2025 年度シラバス

授業概要					
学 科	本 科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	4	必要時間数	8 0	実施時間数	4 8
担当教員	勢志 有次				
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム		
授業目的	平成２６年４月開催の第１００回社会保障審議会給付費分科会の地域包括ケアシステムの中の資料に“鍼灸師”の名前が明記され、医師・看護師、ケアマネージャーをはじめとする多彩な職種のスタッフと互いの専門性を活かしながら連携する「チーム医療」の一員としての役割が求められています。そのため、本講義では臨床上遭遇しやすい症候・疾病に対し、チーム医療として必要な共通言語及び東洋医学の専門性、特に鑑別診断と鍼灸治療を学習する。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、新版東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉、南江堂、２０２２年				

具体的な到達目標	
目標1	疾患概念と症状を述べることができる〔現代医学分野〕
目標2	類似する疾患群の鑑別診断の要点を述べることができる〔現代医学分野〕
目標3	鍼灸適応の場合の治療穴を述べることができる
目標4	各疾患の分類について説明ができる〔東洋医学分野〕
目標5	各疾患について病因病機を説明することができる
目標6	八綱弁証及び気血津液弁証、臓腑弁証の応用ができる
目標7	東洋医学的配穴の根拠を述べることができる
目標8	代表的な徒手検査法について名称、方法、病巣について述べることができる
目標9	
目標10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	9 0 %		
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	1 0 %	算出方法	欠席 1 回減点 2 点、遅刻 1 回減点 1 点
その他	算出方法	算出方法	
試験日	後日伝達		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	鍼灸師の免許を有する。鍼灸治療院を開院し、15年以上の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸臨床の現場において特に遭遇する頻度の高い疾患、症状に対して基本的な診断ならびに治療方法を学ぶ。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、Ⅱ. 頭痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（１）	
2		Ⅱ. 頭痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（２）、Ⅰ. 概説	
3		Ⅲ. 顔面痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
4		第４節 その他の症候 Ⅰ. 顔面麻痺に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（１）	
5		第４節 その他の症候 Ⅰ. 顔面麻痺に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（２）	
6		Ⅴ. 頸肩腕痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（１）	
7		Ⅴ. 頸肩腕痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（２）	
8		Ⅵ. 上肢痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
9		Ⅶ. 肩関節痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
10		Ⅷ. 腰下肢痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
11		Ⅸ. 腰痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（１）	
12		Ⅸ. 腰痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療（２）	
13		Ⅹ. 下肢痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
14		Ⅺ. 膝痛、Ⅳ関節痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
15		運 動 器 疾 患 復 習 ・ ま と め ①	
16		運 動 器 疾 患 復 習 ・ ま と め ②	
17		運 動 器 疾 患 復 習 ・ ま と め ③	
18		2－3 脾系統 Ⅶ. 歯痛に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
19		2－1 肝系統 Ⅰ. 眼精疲労に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
20		2－1 肝系統 Ⅲ. めまいに対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
21		2－5 腎系統 Ⅱ. 耳鳴り・難聴に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
22		2－5 腎系統 Ⅰ. 脱毛症に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
23		2－1 肝系統 Ⅱ. 気分障害に対する東西医学の鑑別と鍼灸治療	
24		総 復 習	

その他の事項

【学習アドバイス】

知識として要求されるのは、『臨床医学総論』、『臨床医学各論』、『経絡経穴概論』、『東洋医学概論』の分野です。この科目は単独で学習する類のものではなく、他の科目の知識がいかに身についているかが問われるものと言えますので、まずは上記科目をしっかりと確認することが必要です。そのためにも授業前後、または授業中にわからない項目についてその都度、上記４科目の教科書・ノートを確認するようにしてください。

専 門 分 野 (東洋医学臨床論Ⅱ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2025 年度シラバス

授業概要					
学 科	本 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	臼井 明宏				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	東洋医学臨床論は、治療各論を重点に展開する。臨床現場で遭遇する症候や疾患に対して、西洋・東洋医学の両面から診断、治療の適否について学習する。				
教 科 書	新版 東洋医学臨床論＜はりきゅう編＞ 南江堂		新版 東洋医学概論 医道の日本社		
	東洋医学臨床論＜あま指編＞ 医道の日本社		臨床医学各論 医歯薬出版社 など		

具体的な到達目標	
目標 1	症候の禁忌、適応の判断ができる。
目標 2	疾患、症候を東洋医学的、現代医学的の両面から病態把握ができる。
目標 3	疾患、症候に対する鍼灸、あま指の施術を説明できる。
目標 4	疾患、症候固有の症状、反応などを説明できる。
目標 5	疾患、症候に対する治療経穴の部位、支配神経、支配筋などが説明できる。
目標 6	腹診、脈診、痛みの分類から病態を判断ができる。
目標 7	国家試験問題を解き、解答に対する説明ができる。
目標 8	加齢に伴う病態について、説明できる。
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	1 0 0 %	1 0 0 %	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日			

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☒	無 ☐	
教員の实務経験	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業 4 年、他治療院 2 年の勤務経験あり。脳血管障害等のリハビリ病院にて、3 年の研修経験あり。介護予防運動指導員、福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で 4 年間の実務経験あり。		
実務経験をいかした教育内容	臨床現場での経験、必要な事項についても教授しながら、また国家試験における出題傾向も交えて授業を展開する。		

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		第2章各論 第2節 2-2 心系統 I 動悸・息切れ	シラバス説明含む
2		第2章各論 第2節 2-2 心系統 II 血圧異常	
3		第2章各論 第2節 2-2 心系統 III 睡眠障害	
4		第2章各論 第2節 2-3 脾系統 I 食欲不振	
5		第2章各論 第2節 2-3 脾系統 II 肥満	
6		第2章各論 第2節 2-3 脾系統 III やせ(るい瘦) まとめ・問題演習(1～6回授業)	
7		第2章各論 第2節 2-5 腎系統 III 排尿障害①	
8		第2章各論 第2節 2-5 腎系統 III 排尿障害②	
9		第2章各論 第2節 2-5 腎系統 IV ED(勃起障害)	
10		第2章各論 第3節 I 疲労と倦怠	
11		第2章各論 第3節 II 発熱	
12		第2章各論 第3節 III 冷え IV のぼせ	
13		第2章各論 第3節 V 浮腫	
14		東洋医学臨床論総合 まとめ・問題演習(7～13回授業)	
15		各種検査・指標について	
16		第2章各論 第3節 VI 掻痒感・肌荒れ・発疹	
17		第2章各論 第4節 その他の症候 II 歩行異常	
18		第2章各論 第4節 その他の症候 III 口渇	
19		第2章各論 第4節 その他の症候 IV 出血傾向	
20		第2章各論 第6節 小児特有の症候①	
21		第2章各論 第6節 小児特有の症候②	
22		第2章各論 第7節 老年特有の症候①	
23		第2章各論 第7節 老年特有の症候②	
24		(臨各)加齢に伴う病態 a. フレイル b. サルコペニア、c. ロコモ	
25		(臨各)加齢に伴う病態 d. 治療 まとめ	
26		運動療法の病態と治療など(ストレッチング)	
27		東洋医学臨床論総合 まとめ・問題演習 第3節・第4節	
28		東洋医学臨床論総合 まとめ・問題演習 第6節・第7節	
29		東洋医学臨床論総合 問題演習(アマ指実技に特化した内容)	
30		東洋医学臨床論総合 関節拘縮について	

その他の事項

<授業の概要> 教科書および配布資料を用い、授業を行います。
 <教員から> 東洋医学臨床論は東西の異なる医学で学んできた内容を総合した科目です。両方の視点を持ち、診察から病態把握、施術が出来ることを目標とします。臨床医学各論、臨床医学総論、リハビリテーション概論、経絡経穴概論、東洋医学概論なども都度、復習のこと。
 <連絡先> usui@butsugen.or.jp

専門分野（はりきゅう理論Ⅱ）シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2025 年度シラバス

授業概要					
学 科	本 科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	2	必要時間数	40	実施時間数	40
担当教員	金井 優也				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	本授業では人体に鍼灸施術をすると、どのような作用機序で効果を発揮するかを学ぶ。その作用機序を理解するためには生理学の知識が必要になってくる。従って、生理学の知識を再教授し、その知識が鍼灸施術に連結する事を目的とする。また、国家試験に出題される問題に対応できる力を育成する。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、はりきゅう理論第3版 医道の日本社				

具体的な到達目標	
目標1	鍼灸治効に必要な生理学的知識を理解し説明することができる。
目標2	鍼灸の治効機序を理解し説明することができる。
目標3	関連学説について理解し説明することができる。
目標4	
目標5	
目標6	
目標7	
目標8	
目標9	
目標10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	70%		
平常点	30%	算出方法	小テスト
出席点		算出方法	
その他		算出方法	
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☒	無 ☐
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		運動系の調節（随意運動、反射運動）	
2		運動系の調節（ α — γ 連関と筋緊張）、自律神経による調節	
3		自律神経を介する反射、内分泌系による調節	
4		感覚（痛覚①）	
5		感覚（痛覚②）	
6		感覚（関連痛、痛みと鍼灸、温度覚）	
7		感覚（触覚・圧覚・振動覚・固有感覚①）	
8		感覚（触覚・圧覚・振動覚・固有感覚②）内臓感覚	
9		熱傷（炎症の徴候・出現細胞・制御因子・発痛物質）	
10		熱傷（分類、灸）	小テスト
11		体表の反応、トリガーポイント	
12		鍼鎮痛①下行性痛覚抑制、DNIC	
13		鍼鎮痛②内因性痛覚抑制系	
14		皮膚循環と鍼灸、運動系と鍼	
15		消化器系と鍼、泌尿器系と鍼、リラクセーションと鍼灸、生体防御系と鍼灸	
16		鍼灸治効機序と臨床の接点①	
17		鍼灸治効機序と臨床の接点②	
18		鍼灸治効機序と臨床の接点③	
19		関連学説、まとめ、問題演習	
20		まとめ、問題演習	
その他の事項			
状況により、セイリン工場見学・もぐさ工場見学が授業に落とし込まれる可能性があります。予めご了承ください。			

授業概要					
学 科	本 科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	2 0	実施時間数	2 0
担当教員	川口 隼子				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	現代医療や福祉の環境が変化する中で、あま指師の必要性は必須とされている。あま指の理論と基本的な技術を正確にマスターし、現代社会に踏み出したときに、患者に対して適応する施術ができて、不利益を与えず、尊敬され慕われる医療人となるための学習をする。				
教科書	公益社団法人 東洋療法学校協会編 あん摩マッサージ指圧理論 第3版 医道の日本社 2016年				

具体的な到達目標	
目標1	あま指の発祥地、特徴について説明できる。
目標2	あま指の手技の相違点について説明できる。
目標3	あま指の作用、治療効果について説明できる。
目標4	古法あん摩の手技を現代の手技に置き換えて説明できる。
目標5	生体に対する機転（体性神経、自律神経）について説明できる。
目標6	あま指理論の学説について説明できる。
目標7	物理療法の特徴について説明できる。
目標8	あま指の適応と禁忌について説明できる。
目標9	運動法の種類、特徴について説明できる。
目標10	あま指の技術が西洋医学にどのように応用されているか説明できる。（看護、乳房、スポーツ、結合組織マッサージ）

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	90%				
平常点	算出方法		算出方法		
出席点	10%	算出方法	1 回欠席ごとに 2% 減。遅刻、早退は 3 回で 2% 減ずる。	算出方法	
その他	算出方法		算出方法		
試験日					

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	あん摩マッサージ指圧師の免許を有し、治療院を開業する。

実務経験
をいかした
教育内容

患者の主訴と施術範囲、手技の選択の適合ができる実と。あマ指の手技を理解し、疾病ごとに実技に応用して対処できること。ヒヤリハットなどの対処について。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		東洋医学との関わり方経絡経穴、流注など。	
2		古法あん摩について（あん摩手引きの説明）	
3		教科書前版の復習。手技についてののプリント配布（対面）	
4		古法あん摩、あん摩手引き、腹症の説明について。	
5		導引口訣鈔の読み下しと解説。	
6		導引口訣鈔の読み下し。あマ指の応用について（医療、看護、産業、乳房、スポーツ）	
7		あマ指が生体に対する作用について、問題集プリント配布（対面）	
8		物理療法の一般（電気、光線、温熱、寒冷、水治、温泉、風呂）の作用と禁忌について。	
9		あマ指理論全般の復習。 テスト問題の範囲について。（対面）	
10		テスト返却と解説。あマ指の適応と禁忌について。（対面）	

その他の事項

教科書メインの授業なので重要箇所のマーキングを忘れないこと。体調管理は自己責任なので仕事優先で休まないこと。
対面授業では動画配信の復習としての練習問題を出題していきます。

授業概要					
学 科	本 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	90	実施時間数	90
担当教員	岩本 奈己 / 井口 智弘 / 金井 優也 / 樋口 雅一				
授業形態	実 習	教 室	第3実技室		
授業目的	前期では、各症候の東洋医学的、現代医学的な考え方を理解し、特殊鍼灸術を含めた鍼灸実技が安全に行うことが出来る。				
	後期では運動器疾患を中心に、各部位の症状を鍼灸施術により改善できることを目標に、臨床で遭遇しやすい疾患に対し、代表的な治療穴を用いた施術ができるようになる。卒業時に自信をもって鍼灸施術に臨めるように準備をする。				
教 科 書					

具体的な到達目標	
目標 1	鍼通電を安全に行える。
目標 2	間接灸（棒灸・箱灸・隔物灸）を安全に行える。
目標 3	複数の使用経穴に対して、安全かつすばやく刺鍼が行える。
目標 4	特殊鍼灸術を含めた鍼灸実技が安全に行うことが出来る。
目標 5	目的とする場所に鍼尖を誘導できる。
目標 6	病態に応じた鍼灸を選択することが出来る。
目標 7	症状に対して特殊鍼灸術を含めた鍼灸施術を安全に行える。
目標 8	しょうがいに関係する筋肉・神経を理解できる。
目標 9	しょうがいに関係する筋肉・骨を触診できる。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	50%		50%		
平常点	50%	算出方法	50%	算出方法	
出席点		算出方法		算出方法	
その他		算出方法		算出方法	
試験日					

＊再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	〔金井〕はり師・きゅう師の免許を有する。鍼灸治療院にて2年間の勤務経験あり。教員養成科附属治療院で2年の実務経験あり。本校附属治療所で6年間の実務経験あり。 〔岩本〕はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成科附属治療院で2年の実務経験あり。本校附属治療所で3年間の実務経験あり。 〔井口〕はり師・きゅう師の免許を有する。訪問鍼灸院・鍼灸整骨院・デイサービスにて2年間の実務経験あり。

	大学院鍼灸センターにて 2 年間、往診専門で 4 年間の実務経験あり。本校附属治療所で 2 年間の実務経験あり 〔樋口〕 鍼灸師・トレーナー。鍼灸治療院にて 20 年以上の臨床経験。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸を行う事によりどの様な症状を改善できるのか、またどの様な経過をたどり改善していくのかを伝える。 鍼灸に携わるようになった頃から現在までの感覚の変化も伝えたい。 また、臨床現場で想定しうる疾患に対し、あらゆる観点を踏まえ効果的な治療方法を体現し、使用頻度の高い特殊鍼灸施術を紹介し授業を展開する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		鍼通電①(鍼通電の概要、前脛骨筋・長趾伸筋、長母趾伸筋の筋パルス)	金井
2		足部	樋口
3		鍼通電②(腓腹筋、ハムストリングス、脊柱起立筋の筋パルス)	金井
4		鍼通電③(坐骨神経、尺骨神経の神経パルス)	金井
5		中足骨疲労骨折	樋口
6		耳鍼・鍼通電まとめ	金井
7		棒灸・箱灸	井口
8		隔物灸	井口
9		足関節捻挫	樋口
10		奇経治療	井口
11		足関節捻挫後遺症	樋口
12		経筋治療	井口
13		シンスプリント	樋口
14		接触鍼	井口
15		アキレス腱炎	樋口
16		顔面部刺鍼①	井口
17		オスグッド。ジャンパー膝	樋口
18		顔面部刺鍼②	井口
19		腸脛靭帯炎	樋口
20		灸頭鍼①	井口
21		ランナーズジストニア（ぬけぬけ病）	樋口
22		灸頭鍼②	井口
23		手部	樋口
24		前期試験①	井口・金井
25		月状骨軟化症	樋口
26		前期試験②、特殊鍼灸のまとめ	井口・金井
27		TFCC	樋口
28		急性腰痛に対する鍼灸治療	金井
29		野球肘	樋口

30		慢性腰痛に対する鍼灸治療	金井
31		テニス肘	樋口
32		殿部痛に対する鍼灸治療	金井
33		頸部の凝りに対する鍼灸治療	金井
34		野球肩	樋口
35		肩背部の凝りに対する鍼灸治療	金井
36		頸肩背部の遠隔治療	金井
37		顔面神経麻痺・三叉神経痛の鍼灸治療	金井
38		股関節痛に対する鍼灸治療	金井
39		膝関節痛(膝蓋骨付近)に対する鍼灸治療	金井
40		<u>後期試験①</u>	金井、岩本
41		<u>後期試験②</u> 、手部の触診・手部の特効穴、	岩本、金井
42		手根管症候群・ドゥケルバン症候群の鍼灸治療	岩本
43		寝違い・後頸部の鍼灸治療	岩本
44		頭痛に対する鍼灸治療	岩本
45		風邪・胃腸症状に対する鍼灸治療	岩本

その他の事項

【授業に関して】

ホワイトボードに図等を描くことがあります。必要な方は紙に書いてください。

写真など画像に残す・講義の録音は原則禁止とします。

【試験について】

・前期試験は、井口・金井の授業範囲の試験を実施します。試験の合格を以て試験成績の50%に換算します。

・後期試験は、岩本・金井の授業範囲の試験を実施します。後期の合格を以て試験成績の50%に換算します。

試験不合格の場合は0点となり、再試験合格にて鍼灸実技Ⅱの評価は60点となります。

尚、試験の補助または患者役として授業担当外の教員が入ることもあります。

【平常点について】

① 紙上の施灸 ※提出しなければ点数はありません(加点方式)。

毎月初めに、10枚ずつ施灸用の紙を配布しますので、月末まで(4月除く)に各担任もしくは金井へ提出してください。

(4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月 に実施とする)

前期：施灸用紙50枚提出で平常点50点

後期：施灸用紙20枚提出で平常点50点

②その他(減点方式)

- ・実技道具や実習着忘れ 1回につき1点減点
- ・無断欠席・遅刻 1回につき1点減点
- ・授業中の無駄な私語や教員の指示に従わない場合 1回につき3点減点

【実技実習の到達目標】

鍼：目標課題に対して誤差なく、決められた刺法で刺入ができること。

・深度： 3年生は±2mm以内で刺入できることを最低ラインの目標とする。※但し、目的の深度が1cmの場合は下限を7mmとする。

・角度： (直刺) 90° を目標として刺鍼する。3年生は誤差±10° 以内で刺入できることを最低ラインの目標とする。

(斜刺) 30° から60° であるが、基本45° を目標として刺鍼する。3年生は指定された角度に対し±10° 以内

※斜刺は流注に沿っての角度を計測することとする。

灸：目標 人体に対して3分間に12壮、半米粒大の透熱灸(緩和あり)ができること。

【形・大きさ・壮数・方法・時間】3年生は3分間に米粒大10壮、半米粒大12壮

授業概要					
学 科	本 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	松浦英世				
授業形態	実 習	教 室	実施教室を選択		
授業目的	これまでに習った基礎医学やあん摩・マッサージ・指圧基本術式を応用し、各疾病を学び臨床に応用した治療法を学習する。 卒業後の開業した際に症状に合った治療法を学習する。				
教 科 書	スポーツマッサージ、テキスト配布				

具体的な到達目標	
目標 1	体幹部の体表観察、触診を行い骨・筋を理解することができる。
目標 2	体幹部の骨筋を理解した上で障害部位に対し適切な治療をすることができる
目標 3	内科疾患に対する手技療法をすることができる。
目標 4	臨床実習に向けて全身施術ができるようになる。
目標 5	卒業後に向けてあま指の総合的な治療法を理解し開業に対する考え方ができるようになる
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	7 0 %		7 0 %		
平常点	算出方法		算出方法		
出席点	3 0 %	算出方法 欠席 2 点、遅刻 1 点減点	3 0 %	算出方法 欠席 2 点、遅刻 1 点減点	
その他	算出方法		算出方法		
試験日					

＊再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	鍼師・灸師・按摩マッサージ指圧師の免許を有する。鍼灸治療院にて 40 数年の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	臨床の現場において遭遇するあらゆる主訴に対する基本的な治療の方法を行う。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		大腿部前面⑳ 大腿部の障害について説明。治療穴に対するマッサージ実技。伸展法含む。	
2		大腿部後面㉑ 大腿部の障害について説明。治療穴に対するマッサージ実技。伸展法含む。	
3		鼠径部股関節㉒ 股関節の障害について説明。治療穴に対するマッサージ実技。牽引性運動法含む。	
4		治療の概要および太極療法	
5		胃疾患① 肋骨弓角の診方と食道・胃疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
6		肝胆脾② 十二指腸周囲の疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
7		大小腸③ 大小腸疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
8		大小腸③ 虫垂炎・痔疾の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
9		泌尿器疾患④ 腎・膀胱疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
10		婦人科疾患⑤ 月経と更年期疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
11		反射穴に対する手技療法	
12		伸展法実技（下肢編）	
13		前期実技試験	
14		背俞穴に対する全身編スポーツマッサージ実技（B 腰殿部・C 下肢後面）	
15		呼吸器⑥ 風邪と気管支疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
16		心臓⑦ 不整脈と動悸の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
17		頸肩背部（背俞穴）の全身編スポーツマッサージ実技（A 頸肩背部）	
18		頭痛⑧ 頭部の診方と症状部位の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
19		神経症⑨ 頭部の触診と症状の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
20		眼科疾患⑩ 症状の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
21		耳疾患⑪ 耳鳴り・難聴・めまいの局所穴と遠位穴に対する手技療法	
22		鼻疾患⑪ アレルギー鼻炎や嗅覚異常の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
23		顔面部⑫ 顎関節症・歯痛の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
24		伸展法実技（上肢編）	
25		後期実技試験	
26		美顔マッサージ実技 美顔の局所穴と遠位穴に対するマッサージ実技	
27		乳房マッサージ実技 乳房に対する局所穴・遠位穴・反射穴のマッサージ実技	
28		頭髪際刺針法 理論と実技	
29		耳鍼法 理論と実技	
30		診療白書 診察から治療まで	
その他の事項			
各疾患に対し、資料に基づいて実技を学び、その後学生同士ペアーとなり実技を行う。			

専 門 分 野 (マッサージ実技Ⅲ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2025 年度シラバス

授業概要					
学 科	本 科	学 年	3 年	学 期	後 期
単 位 数	1	必要時間数	3 0	実施時間数	3 0
担当教員	臼井 明宏				
授業形態	実 習	教 室	第3実技室		
授業目的	これまでに習った医学的知識やマッサージの手技を応用し、オイルマッサージにて、腰痛、膝痛などの症候に対する施術を学習する。				
教 科 書	東洋療法学校協会編 あん摩マッサージ指圧実技〈基礎編〉 医道の日本社				

具体的な到達目標	
目標 1	下肢前面・後面の体表観察、触診を行うことができる。
目標 2	下肢前面・後面へのオイルマッサージを行うことができる。
目標 3	背部へのオイルマッサージを行うことができる。
目標 4	下肢、腰部などの検査・評価等を行うことができる。
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	8 0 %		
平常点	2 0 %	算出方法 課題など	算出方法
出席点		算出方法	算出方法
その他		算出方法	算出方法
試験日			

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☒	無 ☐
教員の実務経験	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業4年、他治療院2年の勤務経験あり。脳血管障害等のリハビリ病院にて、3年の研修経験あり。福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で5年間の実務経験あり。		
実務経験をいかした教育内容	実際の症例を参考に、評価等を含め、教授を行う。		

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		下腿後面へのマッサージ(基本手技の確認：軽擦、圧迫、揉捏、鋸切揉捏、叩打法) オイルのパッチテスト	タルク使用
2		下肢後面へのマッサージ ① 足底 評価…足関節、足趾	以下、オイル使用
3		下肢後面へのマッサージ ② 下腿 評価…足関節、足趾	
4		下肢後面へのマッサージ ③ 足底・下腿・大腿 ※強擦法のレクチャー	
5		下肢後面へのマッサージ ④ 大腿・叩打法 評価…FFD、SLR 等	
6		下肢前面へのマッサージ ① 足背・下腿前面 評価…足関節、足趾	
7		下肢前面へのマッサージ ② 下腿前面・外側 評価…腸脛靭帯炎など	
8		下肢前面へのマッサージ ③ 足背～叩打法・運動法 ※強擦法のレクチャー	
9		腰背部へのマッサージ ① 全体の軽擦、半身への軽擦、揉捏など	
10		腰背部へのマッサージ ② 全体の軽擦～肩甲骨周囲、頸部	
11		腰背部へのマッサージ ③ 全体の軽擦～しあげ	
12		腰背部へのマッサージ ④ 全体の軽擦～しあげ 評価：頸部、腰部など	
13		腰背部へのマッサージ ⑤ 全体の軽擦～しあげ (時間計測し、時間内施術)	
14		期末試験	
15		試験フィードバック 下肢後面・前面、背部へのマッサージのまとめ	

その他の事項
●参考書籍・DVDなど 『エビデンスに基づく 疾患別クリニカルマッサージ』 大谷素明監訳 丸善出版株式会社 『改訂版 クリニカルマッサージ』 大谷素明監 医道の日本社 『分解写真で学ぶオイルマッサージ完全マニュアル』 長谷川尚哉著 出版：(株)ソクラーテクノス (kindle 版) 『マッサージスコアで学ぶオイルマッサージ』 長谷川尚哉著 出版：(株)ソクラーテクノス (DVD) ●平常点について 課題、実技チェックなどを行い、20%分の評価とします。

授業概要					
学 科	本 科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	3 0	実施時間数	3 0
担当教員	松尾 卓、上田 恵介、佐藤 陽子				
授業形態	実 習	教 室	第 3 実技室		
授業目的	指圧療法は、東洋医療の根源ともいべき経絡経穴を重視して、全身を系統的に押圧し、生体の変調を矯正するのみならず、自律神経の支配を受けている内臓機能の変調も矯正し、自然治癒力を喚起して疾病治癒に貢献できる施術である。 指圧の基本手技や理論のみに留まらず、遭遇しやすい疾病に指圧を応用し、疼痛や麻痺の運動神経支配の治療だけでなく、自律神経支配の疾病も、内臓体制反射を利用して治療に役立たせ、臨床の場で実践できるように学習する。				
教 科 書	教科書は指定しない				
具体的な到達目標					
目標 1	各疾病に対してなぜこの経絡経穴を使用するのか説明できる。				
目標 2	治療部位の筋肉や神経の作用を説明できる。				
目標 3	施術する疾患に対しての適応と禁忌の判断ができる。				
目標 4	病名にとらわれず、東洋医学の証を立てて治療ができる。				
目標 6	各疾患の治療部位にどのような手技を使用する必要があるのか説明できる。				
目標 7	模擬の患者に対して治療法の説明ができる。				
評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	7 0 %				
平常点		算出方法		算出方法	
出席点	3 0 %	算出方法	1 回欠席ごとに 2 点。遅刻、 早退は 3 回で 2 点の減点	算出方法	
その他		算出方法		算出方法	
試験日	後日伝達				
★再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。					
担当教員の実務経験					
実務経験	有	☒	無	☐	
教員の実務経験	〔松尾〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸あま指整骨院にて 2 年間の臨床経験あり。本校附属治療所で 1 2 年間の実務経験あり。 〔上田〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。あはき施術管理者。教員養成科附属治療院にて 2 年、鍼灸あま指治療院にて 2 年間、往診専門で開業 8 年、本校附属治療所で 1 0 年間の実務経験あり。 〔佐藤〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において 7 年間の臨床経験あり。本校附属治療所で 1 4 年間の実務経験あり。				
実務経験をいかした教育内容	実際の臨床における患者対応や頻度の高い疾患・症状へのアプローチの方法などを盛り込みながら指導を行う。				

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		伏臥位操作の復習	佐藤
2		側臥位操作の復習	佐藤
3		坐位操作の復習	佐藤
4		便秘・下痢に対する指圧	佐藤
5		冷え・のぼせに対する指圧	佐藤
6		腰下肢痛に対する指圧	上田
7		肩関節痛に対する指圧	上田
8		耳鳴りに対する指圧	上田
9		訪問現場などでの指圧（床）	上田 ※2実
10		食欲不振に対する指圧	上田
11		神経疾患に対する指圧①	松尾
12		神経疾患に対する指圧②（杖、車いすの操作）	松尾
13		呼吸器疾患に対する指圧	松尾
14		総復習	松尾
15		前期末試験	松尾・上田・佐藤
その他の事項			
内容・日程や担当者は前後する可能性がありますので、予め了承ください。			

授業概要					
学 科	本 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	4	必要時間数	1 8 0	実施時間数	1 8 0
担当教員	川口/臼井/松尾/上田/下宮/棟居/高橋/金井/岩本/井口/佐藤				
授業形態	実 習	教 室	臨床実習室		
授業目的	臨床に出て適切に対処できる最低限の知識、技術を身につける。				
	施術者としての自覚を持ち、安全性を十分に考慮した上で施術ができるようになる。				
	「東洋医学的」、「現代医学的」両面から収集した情報をもとに適切な対処ができる。				
教 科 書	授業で学んだ検査や四診を活用し、患者の病態を把握できるようになる。				
	臨床実習の手引き				

具体的な到達目標					
目標 1	施術者としての自覚を持ち、臨床実習に相応しい身だしなみ、態度で積極的に参加することができる。				
目標 2	患者の「受入れ・医療面接・触診（切診）・検査法・病態把握・施術方針の決定・施術・評価」の流れをスムーズに行うことができる。				
目標 3	安全かつ適切な対処や施術ができる。				
目標 4	「東洋医学的」「現代医学的」な病態把握に基づく施術ができる。				
評価と試験					
前 期			後 期		
平常点	算出方法	後期に準ずる	41 点	算出方法	その他の事項に記載
出席点	算出方法	後期に準ずる	59 点	算出方法	その他の事項に記載
その他	算出方法		0 点	算出方法	
試験日					

＊再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験				
実務経験	有	☒	無	☐
教員の実務経験	〔川口〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。自宅で開業。 〔臼井〕 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業 4 年、他治療院 2 年の勤務経験あり。脳血管障害等のリハビリ病院にて、3 年の研修経験あり。福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で 5 年間の実務経験あり。 〔松尾〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸アマ指整骨院にて 2 年間の臨床経験あり。本校附属治療所で 1 2 年間の実務経験あり。 〔上田〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。あはき施術管理者。教員養成科附属治療院にて 2 年、鍼灸アマ指治療院にて 2 年間、往診専門で開業 8 年、本校附属治療所で 1 0 年間の実務経験あり。 〔下宮〕 はり師・きゅう師の免許を有する。整形外科、鍼灸整骨院にて 4 年間の経験あり。他校附属治療院にて 6 年間の実務経験あり。本校附属治療所で 6 年間の実務経験あり。 〔棟居〕 はり師・きゅう師の免許を有する。鍼灸院にて 9 年間の実務経験あり。教員養成科附属治療院にて 2 年間、往診専門で 2 年間、本校附属治療所で 1 5 年間の実務経験あり。			

	〔高橋〕はり師・きゅう師の免許を有する。免許取得後、教員養成科時代に附属治療院にて2年間の実務経験あり。 本校附属治療所で6年間の実務経験あり。
	〔金井〕はり師・きゅう師の免許を有する。免許取得後、教員養成科時代に附属治療院にて2年間の実務経験あり。 鍼灸治療院にて2年間の勤務経験あり。本校附属治療所で6年間の実務経験あり。
	〔岩本〕はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成科附属治療院で2年の実務経験あり。本校附属治療所で3年間の 実務経験あり。
	〔井口〕はり師・きゅう師の免許を有する。訪問鍼灸院・鍼灸整骨院・デイサービスにて2年間の実務経験あり。 大学院鍼灸センターにて2年間、往診専門で4年間の実務経験あり。本校附属治療所で2年間の実務経験 あり。
	〔佐藤〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において 7年間の臨床経験あり。本校附属治療所で14年間の実務経験あり。
実務経験を いかにした 教育内容	(あん摩マッサージ指圧) あん摩マッサージ指圧における基本手技を必要に応じて病態に適した施術ができるように教育する。
	(鍼灸) 鍼灸師にとって必要な東洋医学的理論に基づく治療配穴や刺鍼および施灸方法とその刺激の調整について教育する。 また、西洋医学理論に基づく筋肉や神経に対して、適切な鍼の深度と角度で施術ができ、必要に応じて施灸を することができるように教育する。

授業の内容		
回数	内容	備考
1～ 60	来所患者に対し、教員管理のもと施術を行う。	

その他の事項
<出席点>59点 - 総授業数の3/4以上の出席をもって59点とする。出席が3/4に満たない場合、加点はしない。 <平常点>41点 ※ポートフォリオを提出しなければ点数はありません。 【加点方式】 - ポートフォリオの提出（4月～12月 計8回） - 月初めに掲げたパーソナルポートフォリオ、テーマポートフォリオを作成し、その成果を纏めたものを月末に提出する。 - 評価は、優（5点）、良（3点）、可（1点）の3段階とする。 - 年間を通じて8回実施する。提出が1度もされなかった場合、臨床実習Ⅱの平常点は0点となり、単位未習得になるため注意 8回すべて提出した場合、ポートフォリオの評価とは別に加点1点とする。 【減点方式】<u>下限40点</u> - 日々の臨床実習に臨む姿勢（身だしなみ、道具の忘れ、授業態度など） 「欠席届（欠課・遅刻）」の提出（当日欠課の場合、事前の電話連絡の有無など） - 令和7年7月～9月の欠課、令和8年1月以降の欠課、前出以外の期末試験前日及び当日の欠課 【臨床実習でのマッサージ、指圧の扱い】 マッサージは患者の病態に応じて必要な場合、教員の指示のもと実施することが可 指圧は指圧審査にて合格したものが基本手技のみ可

授業概要					
学 科	本 科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	3 0	実施時間数	3 0
担当教員	小 林 靖 弘				
授業形態	実 習	教 室	第3実技室		
授業目的	2 年次の『経絡治療理論』で学修した“経絡治療”は、気血にアプローチする所謂古典的鍼灸術であり、古典的治療として現在の日本において一定の認知がなされている。理論は非常に重要であるが実際の治療に生かされなければ空理空論に終わる。2 年次に学んだ理論を礎にして、鍼灸術としての経絡治療を具体的に習得し、鍼や艾を用いて気血にアプローチする古典的治療が実際に行えるよう、経絡治療の実技実習の基礎を体現できるようにする。				
教 科 書	必要に応じて担当教員がプリントを配布する。				

具体的な到達目標	
目標 1	感染防止とリスクマネジメントを含む安全な刺鍼、施灸ができる。
目標 2	気血にアプローチする四診の意味を理解し、それを正確に行うことができる。
目標 3	気血にアプローチする鍼術の基礎を体現できる。
目標 4	気血にアプローチする灸術の基礎を体現できる。
目標 5	診察から診断、治療という一連の流れが体現できる。
目標 6	
目標 7	

評価と試験	
前 期	後 期
試験成績	5 5 % (100 点満点で、得点の 55%を成績とする 但し、得点が 59 点以下の場合も再試験とする)
出席点	4 5 % 算出方法 休み減点法 (1 回目 : 5 点、2 回目 : 1 0 点、3 回目 : 1 5 点 4 回目 : 1 5 点 それぞれ減点)
試験日	授業の中で確認試験を行う。

★再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の実務経験	はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師免許取得後直ちに開業し、 1 2 年間の臨床経験を有する。
実務経験をいかした教育内容	臨床現場では、経絡治療を主体とした鍼灸治療を行っていたので、きちんとした理論をベースに行う臨床実践がどのようなものであるかを実際に生徒の目の前に提示する。できるだけ具体的な臨床例を引用しながら、経絡治療がイメージしやすいような授業展開を心掛ける。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1	4/11	ガイダンス。経絡治療とは何か。2年次の理論の復習、確認	
2	4/18	気血にアプローチする押手、刺手。痛くない切皮、弾入	
3	4/25	望診の実際	
4	5/2	問診の実際	
5	5/9	脈診の確認。正しい姿勢と感染防止	
6	5/16	脈診の実際	
7	5/23	腹診の実際。正しい姿勢と感染防止、腹部の正しい取穴	
8	5/30	背候診と背腰部の正しい取穴	
9	6/6	切経と手足の要穴の正しい取穴	
10	6/13	刺さない鍼：鍍鍼、接触鍼、散し鍼	
11	6/20	単刺術と置鍼法	
12	6/27	本治法と標治法。補瀉の実際	
13	7/4	古典治療におけるお灸	
14	7/11	確認試験	
15	7/18	全身治療としての経絡治療	

以下余白

その他の事項